

安全データシート (SDS)

作成 2012年5月24日
最終改訂 2024年4月17日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品	
製品の名称	アルセン メラミンブリーチ
供給者情報	
会社名	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10 マーケティング室 開発企画課
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706
緊急連絡先	同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類	
物理化学的危険性	
酸化性固体	区分3
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(経皮)	区分4
急性毒性(吸入:粉塵)	区分4
皮膚腐食性・刺激性	区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分3
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分2
(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、 上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。	

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

火災助長のおそれ(酸化性物質)
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害
吸入すると有害
軽度の皮膚刺激
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
眠気やめまいのおそれ
水生生物に毒性

注意書き 【安全対策】

粉塵、蒸気、ガス、ミスト、フォーム、スプレーの吸入を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【救急処置】

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させる。
飲み込んだ場合 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合 ただちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。
皮膚をシャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯をすること。

【保管】

高温・多湿を避ける。重金属・塩類・酸化物・還元剤等との混合を避ける。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県または市町村の明示する規則に従って廃棄すること。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物
成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
酸素系漂白剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
炭酸塩	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	1.0未満	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当*
金属イオン封鎖剤 (エチレンジアミン四酢酸塩)	1.0未満	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当*

*…含有量が1.0%未満のため同法に該当しない。

4.【応急処置】

吸入した場合 粉塵やミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。
何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。

目に入った場合 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合 直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のない時は口から何も与えない。

いずれの場合も、医師への診察時には、製品または製品安全データシートを持参する。

5.【火災時の措置】

消火剤 水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。

使ってはならない消火剤 情報なし

特有の危険有害性 情報なし

特有の消火方法 周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。
移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。

消火を行なう者の保護 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。
消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護衣、保護マスクなどの保護具を着用する。保護具はいずれも不浸透性のものを使用する。

環境に対する注意事項 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
雨水溝、河川、海上などに排出されないように注意する。
ほうき等、粉じんが飛散しない方法で回収する。
大量の水にて希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

二次災害の防止策 情報なし

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

注意事項 眼及び皮膚への接触を避ける。

安全取扱注意事項 適切な排気換気装置を使用する。

	取扱い後はよく洗うこと。 適切な不浸透性保護具を着用すること。
保管	
適切な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 高温・高湿を避ける。
容器包装材料	重金属・塩類・酸化物・還元剤等との混合を避ける。 他の容器に移し替える場合は、当社指定の専用容器を使用する。 (商品名、使用方法、注意事項を明記した専用容器)

8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度		設定なし
許容濃度	日本産衛学会 ACGIH	設定なし 設定なし
設備対策	取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。 適切な排気換気装置を使用する。	
保護具		
呼吸器の保護	状況に応じ着用	
手の保護	ゴム保護手袋	
目の保護	保護眼鏡	
皮膚・身体の保護	保護衣、ゴム長靴	
※ 保護具はいずれも不浸透性のものを使用する。		

9.【物理的及び化学的性質】

状態	粉末
色調	白色～淡黄色
臭気	なし
pH	10.5～11.5
融点	データなし
沸点	データなし
引火点	引火しない
燃焼または爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
比重	データなし
溶解度	水に溶けやすい
n-オクタノール/水分 配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
その他	-

10.【安定性及び反応性】

化学的安定性	熱・光などに不安定である。 吸湿や水漏れによって分解が誘発・促進される。
避けるべき条件	高温・高湿下での保管、直射日光下、解放状態
混触危険物質	酸性物質、アルミニウム、すず、亜鉛、銅、銅合金などの金属、還元剤 特にマグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。
危険有害な分解生成物	特になし

11.【有害性情報】

急性毒性	情報なし
目腐食性	情報なし
刺激性(目・皮膚)	刺激性あり
その他	情報なし

12.【環境影響情報】

土壤中の移動性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
生態毒性	アルカリ性であるため、流出した場合は水生生物に対して影響を及ぼす。
他の有害影響	情報なし

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物	少量の場合は、水で希釈してから、酸（希硫酸など）で中和して排出する。 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理する。
汚染容器・包装	使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。

14.【輸送上の注意】

特別の安全対策	輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。 荷役作業は丁寧に扱い、容器を破損しないように取り扱う。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を行う。 直射日光下を避け、高温の所に置かない。 水濡れを避ける。
国際法規制	航空輸送はIATA 及び海上輸送はIMDG の規則に従う。
国連分類	クラス5.1
国連番号	3378(炭酸ナトリウム過酸化水素)
国内規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。

15.【適用法令】

化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質を含むが、含有量が1.0%未満のため同法に該当しない。
労働安全衛生法	
通知対象物質	該当しない
表示対象物質	該当しない
有機則	該当しない
特化則	該当しない
リスクアセスメント対象物質	該当しない
皮膚等障害化学物質	該当
毒物及び劇毒物取締法	該当しない
消防法	該当しない
船舶安全法	酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1
航空法	酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1
水質汚濁防止法	生活環境項目(施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	2012年5月24日
改訂	2016年4月8日
改訂	2018年9月10日
改訂	2022年4月11日
改訂	2023年4月12日
最終改訂	2024年4月17日

注意

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。